キヤノン vs 花王：知財教育の戦略的アプローチ比較

キヤノン：全社への浸透と「三位一体」

階層別研修とOJTを輪に、事業・開発・知財が連携する文化を醸成。

組織ガバナンス

キヤノンはグローバル続制を重視

キヤノンの圧倒的な「知財規模」

10,000件超
(年間出願)
年間特許出願件数
(2025/2026年躍定)

90,000件超
(保有特許)
保有特許件数

教育参加人数
会社員（階層別必須）
年間特許出願件数
（具体値未公開）

花王：戦略的思考を鍛える「技能形成」

研究員の習熟度に応じた段階的講座と1対1指導で、実務スキルを強化。

現場PDCA

花王は教育品質の改善サイクルを重視

花王の「伴走型」ステップアップ

1. 特許作成 → 2. 戦略立案 → 3. 発表会で議論

教育参加人数
年間のべ約450人（研究員中心）
(2021年)
高水準を維持（具体値未公開）

共通課題：事業成果への寄与の可視化

両社ともeラーニングを活用しつつ、
教育と事業KPIの連動を模案中。

eラーニング活用

事業KPI連動

事業KPI連動